

1 4 循環器科フェロー研修要綱

指導責任者 安田 和志

1. 施設認定
(ア) 日本小児循環器学会認定修練施設
2. スタッフ
(ア) 常勤医 8名 (日本小児循環器学会専門医2名)
(イ) 非常勤医 2名
3. 症例数 (2017年)
(ア) 外来患者数 4208人/年
(イ) 入院患者数 590人/年
(ウ) 新患者数 273人 (外来) /年
(エ) 心エコー 5496件/年
(オ) 心臓カテーテル 282件/年
(カ) カテーテル治療 85件/年
(キ) ホルター心電図 494件/年
(ク) 運動負荷心電図 329件/年
4. 主な診療内容
(ア) 先天性心疾患の診断、薬物治療、カテーテル治療、周術期管理
(イ) 不整脈の診断、薬物治療、カテーテル治療
(ア) 後天性心疾患の診断、治療
5. フェロープログラム
いずれのコースも、6の目標項目を目指してトレーニングを行う。
(ア) 1年コース
(イ) 2年コース
6. 研修の目標
(ア) 先天性心疾患の診断
 - ① 肺血流増加性心疾患、肺血流減少性心疾患、動脈管依存性心疾患などにおける血行動態を理解すること。
 - ② 基本的な心疾患に対し、身体所見、心電図、X線写真、および心エコーによる診断ができること。
 - ③ 基本的な心疾患におけるカテーテル検査法を行い、診断および病態評価ができること。
(イ) 先天性心疾患の治療
 - ① 血行動態に応じた術前管理ができること。
 - ② 循環器系薬剤の薬理作用や特徴を理解し、使用できること。
 - ③ カテーテル治療について、治療全体における役割を理解し、基本的な操作ができること。

④ 内科的診断・治療と外科治療との関係について、理解すること。

(ウ) 不整脈の診断

① 標準12誘導心電図の特徴について理解し、診断ができること。

② ホルター心電図、負荷心電図の適応、診断ができること。

③ 治療を要する不整脈の病態について理解すること。

(エ) 不整脈の治療

① 抗不整脈薬について、基本的な作用機序、適応疾患、投与方法、副作用について理解し、使用できること。

② カテーテルアブレーションについて、心腔内心電図の読影、アブレーションの基本原理とその方法について理解すること。

(オ) 後天性心疾患の診断、治療

① 川崎病における心合併症について、危険因子、検査について理解し、治療できること。

② 心筋炎、心筋症（肥大型心筋症、拡張型心筋症、拘束型心筋症等）の早期診断、心危険因子、生活管理予後、薬物治療、心臓移植について理解し、内科的治療ができること。

(カ) プレゼンテーション

循環器疾患について、症例あるいは疾患群について検討および評価を行い、その結果をまとめて症例検討会や学会で発表できること。それらを日本語あるいは英語で論文にまとめることも目指す。